

「わたしたちの体育」を利用した学習事例（第2学年）

小豆島町立安田小学校 西原 昂志

第2学年	単元名	みんなが楽しめるわくわくコースを作ろう
指導時間	4時間	児童書掲載ページP48～P53

【単元の目標】

- ・いろいろな動きの運動遊びの楽しさに触れ、その行い方を知るとともに、体を移動したり、用具を操作したりすることができる。体をほぐしたり多様な動きをつくったりする遊び方を工夫するとともに、考えたことを友達に伝えることができる。運動遊びに進んで取り組み、きまりを守り誰とでも仲よく運動ができる。

【安全にみんなが運動できるように・・・はじめに約束しよう、確認しよう】

- ・用具を移動させたり使ったりするときの注意点を確認する。
- ・用具を使う前には安全点検を行う。
- ・走る活動が多いので、接触によるけがを防止するために、順番を待つときの場所や走り終わった後に元の場所に戻る道順など、主運動を行っていないときの行動について指導する。また、走る順番を守るよう指導する。
- ・活動に慣れないうちは急激に走る活動から入るのではなく、ゆっくりとした動きから行う。
- ・活動の内容によっては急に切り返したり止まったりすることがあるので、準備運動を入念に行うよう指導する。また、授業後に痛いところがないか、体調が悪くないか等、健康状態を確認する。

【学習活動 第1時～第4時】

第1時

- ①学習の目標と進め方を知る。
- ②用具の使い方について知る。
- ③きまり、学習の場、安全面について知る。
- ④活動1「いどうするうんどうあそび」を行う。

1. 【学習の目標と学習の進め方を説明する】

いろいろなコースを見つけよう。

2. 【コース作りで使う用具等の使い方を確認する】



ペットボトル

水を入れて使うので、水がこぼれないようにふたをきちんと閉めているかを確認する。また、簡単に運べるように水の量は4分の1程度にする。

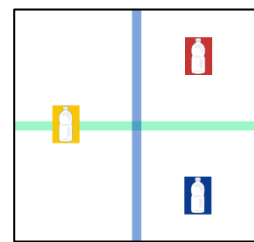
3. 【児童書P48の「きまり」を確認する】

準備や片付けについて確認する。
安全管理を徹底する。



『コース』

児童1人が1つのコースを作る。3m四方の正方形の中にペットボトル3本を自由に配置し、動き方を決める。



4-1. 【走る】

- ・ラインに沿って走る運動を行う。体育館のラインを使い、「白色の線！」など色を指定すると、準備に時間がかからない。
- ・動きに慣れてきたらゲーム性をもたせるためにライン上で鬼ごっこを行う。

※急に後ろに方向転換すると非常に危険なので、後ろには進まず前にだけ進むように指導する。



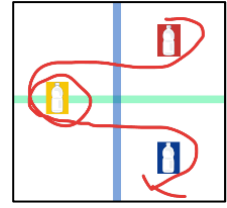
4-2. 【いろいろな動きを見つけてコースを作る】

・2Lペットボトルをコーンに見立てて使用し、ペットボトルを回ったり跳び越えたりする活動を行う。1人3つほど用意し、どんな動きができそうかを考え、コースを作る。

※ペットボトルを曲がることを「くねくね」、回ることを「ぐるぐる」というように教師と子どもが共通理解できる言葉を設定しておく、単元中の伝え合いがスムーズに行える。

『動き方』

この単元ではペットボトルに対しての動きを指す。



実際に児童が作ったコース

⑤学習のまとめの仕方を知り、まとめをする。

5. 【「学習のあしあと」の使い方を説明する】

※友達との関わりの中でできるようになったことを中心に、振り返るように助言する。

まとめ：ペットボトルで曲がったり、ぐると一周回ったり、とびこえたりする動きができた。

		①よくできた ○できた △がんばろう							
学	あ	1	2	3	4	5	6	7	8
い	う								
ろ	ろ								
ろ	ろ								
ろ	ろ								
ろ	ろ								
ろ	ろ								
ろ	ろ								
ろ	ろ								

第2時

①準備運動を行う。

1. 【ラインの上で鬼ごっこ】

・前時と同じルールで行う。
・「曲がる前にはスピードを落としたりいいね。」といった方向転換のポイントを指導する。

②めあてを確認する。

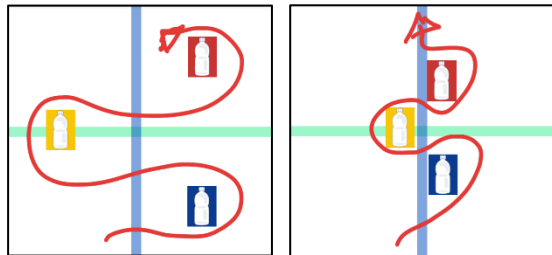
2. もっと楽しいコースを作るポイントを見つけよう。

本時のめあてを意識し、見通しをもって学習に取り組むことができるようにする。

③ペットボトルの間の距離を変えてコースを作る活動を行う。

3. 【自分のコースを修正する】

・ペットボトルの距離を短くすると曲がりにくくなって難しくなり、長くすると簡単に曲がりやすくなることに気付かせる。



左の図では、動き方は同じだが、ペットボトルの距離が違う。右のコースの方が、距離が近いので、方向転換が難しくなる。

④気付いたところや良かったところを伝え合う。

4. 【友達のコースの良いところを見つける】

・4人1組でチームを作り、それぞれ作ったコースをお互いに走ってみて楽しさや面白さを伝え合う。
・自分と同じ動き方を使ってもペットボトルの距離が違うだけで難易度が変わること気付かせる。

⑤共有したポイントを意識してもう一度コースを走る。

⑥本時のまとめをする。

第3時

①活動1「用ぐをそう作るうんどうあそび」を行う。

②めあてを確認する。

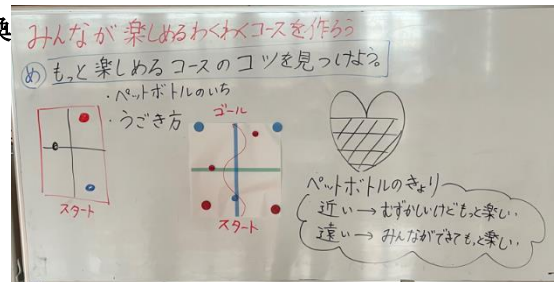
③グループのメンバーのコースをつなげ、ペアでコースにチャレンジする。

5. 【友達の意見を参考にもう一度コースを作る】

- ・コースを直している時に、「誰のコースを見たの？」と尋ね、「あの子はそんなことに気付いていたんだね！あなたもよく気付けたね。」と友達の良さを見つけることに価値付けをする。
 - ・動き方とペットボトルの距離の組み合わせによって難易度が変わることから、簡単すぎても難しすぎても楽しくならないことに気付かせる。
- (例) 何度もペットボトルの距離を調整している児童に対して「もっともっと近づけた方が面白いんじゃないの？」と問い掛け、「近すぎたら、できなくて楽しくない。」という言葉を引き出す。

6. 【学習活動のまとめをし、次時の意欲喚起につなげる】

まとめ：ペットボトルのきよりを近くするとむずかしくなって楽しくなる。遠くになるとみんなができて楽しくなる。



第2時の板書

1. 【はこぶ】

・ドッジボールを背中に挟み、体育館の中を行き来する活動を行う。

※本年度は感染症対策のため、お互いの手と手でボールを挟む活動に置き換えた。

・「もっと左！」「せーのでしゃがもう。」といった相手と動きをそろえようとする声を掛けている児童を価値付けする。

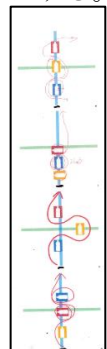


2. コースをペアで楽しく回るポイントを見つけよう。

本時のめあてを意識し、見通しをもって学習に取り組むことができるようにする。

3. 【長いコースをペアでチャレンジする】

- ・本時は友達同士で声を掛け合ったり友達の良さに気付いたりすることをねらいとしているので、コースの順番は教師が提示し、長いコース作りに時間をかけないようにする。
 - ・【はこぶ】の時と同じように、相手と動きをそろえようとする声掛けができていた児童を称賛することで、ねらいにせまる。
- ※児童が度々ボールを落とす場合は、「お互いにボールを押したらうまくいきそうだよ。」など、技術的なアドバイスを伝える。



長いコース
(参考資料にも記載)

技術の向上が目的ではないので、児童が技能面に執着しないように気を付ける。

④うまく声掛けができていたペアを全体に紹介し、ポイントを共有する。

4. 【ポイントを共有する】

・「ここで回って。」「次はぐるぐるだよ。」「ゆっくりね。」といった動きを合わせる言葉を共有する。この時、声を掛けないとうまくいかない様子を教師が演示すると分かりやすい。

・良い例を教師ではなく児童が示せると「自分たちで答えを見つけている。」という実感があり、意欲的な学習につながる。

※活動中に「どうして『ゆっくりね。』って言ってるの？」と尋ね、児童の答えに対して「だから声を掛けるんだね、よく気付いたね！」と価値付けをしておく、児童が自信をもって意見が発表できるので、共有がスムーズに行える。

⑤ペアを変更しもう一度コースにチャレンジする。

5. 【ペアを変更してもう一度コースにチャレンジする】

・ペアが変わってもポイントを生かせばクリアできることを確かめるために、この活動を設定する。

・共有した言葉を使っている児童を称賛する。

⑥本時のまとめをする。

6. 【学習活動のまとめをし、次時の意欲喚起につなげる】

まとめ：友だちと声をかけ合ってきょう力できるともっと楽しくなる。

第4時

①活動2「用ぐをそう作るうんどうあそび」の「はこぶ」を行う。

1. 【はこぶ】

・ドッジボールを4人で背中に挟み、体育館の中を行き来する活動を行う。

※本年度は感染症対策のため、お互いの手と手でボールを挟む活動に置き換えた。



②めあてを確認する。

2. コースをグループで楽しく回るポイントを見つけよう。

本時のめあてを意識し、見通しをもって学習に取り組むことができるようにする。

③これまでの学習を振り返り、グループでチャレンジする。

3. 【グループでチャレンジする】

・前時学んだことは、人数が増えても生かせると気付くことをねらいとする。

※本時は、コースをクリアすることではなく友達と声を掛け合い協力する楽しさを味わうことが目的なので、失敗しても繰り返し行えることを共有しておく。

(例)めあての確認の際に、教師から「さすがに4人は難しいんじゃないかなあ？」

「先生だったらできないかも。」と言っておくと「失敗してもいいんだ。」という雰囲気が作りやすい。

④うまく声掛けができていたペアを全体に紹介し、ポイントを共有する。	4. 【ポイントを共有する】 <ul style="list-style-type: none"> ・声の掛け方だけではなく、「なんかすごく楽しそうだなあ。」「にこにこしているね！」など、楽しんでいる様子も取り上げ価値付けする。
⑤グループを変更しもう一度コースにチャレンジする。	5. 【グループを変更してもう一度コースにチャレンジする】 <ul style="list-style-type: none"> ・グループが変わってもポイントを生かせばクリアできることを確かめるために、この活動を設定する。 ・共有した言葉を使っている児童を称賛する。
⑥本時のまとめをする。	6. 【学習活動のまとめをし、次時の意欲喚起につなげる】 <p style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">まとめ：人数がふえても声をかけ合うとクリアできるし、もっと楽しくなる。</p>

【評価の観点】

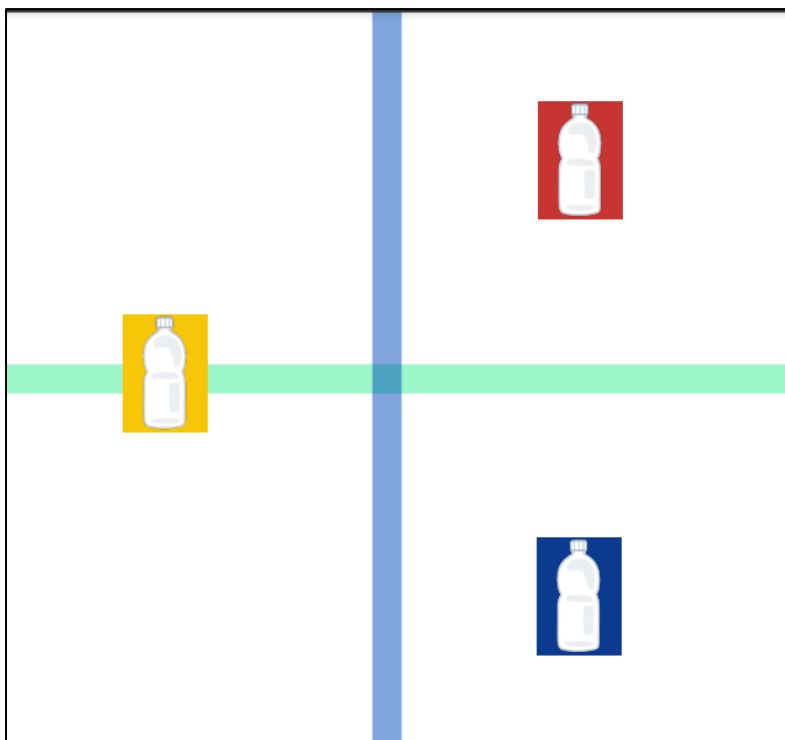
知識及び技能	<ul style="list-style-type: none"> ・自分たちで作ったコースの走り方を理解している。 ・コースをめぐる活動を通して、自己の体と心の変化に気付いている。 ・友達と声を掛け合い、協力して活動に取り組むことができている。
思考力、判断力、表現力等	<ul style="list-style-type: none"> ・自分のコースを面白くするために、様々な動きを取り入れようと工夫している。 ・友達とクリアするためには、どんなところに気を付けたらよいのかを考えている。 ・運動の中で友達にアドバイスをするなど、自分の意見を伝えることができる。
主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> ・コースをめぐる活動に進んで取り組んでいる。 ・道具の使い方を守り、友達と仲良く運動することができる。 ・勝敗にこだわることなく、ルールを守り楽しく運動している。 ・安全に運動するために、自分の役割をきちんとやり遂げている。

【学習を通しての児童の反応、児童の感想】

児童の反応	<ul style="list-style-type: none"> ・第1時、第2時では特別支援学級の児童を含めて、全員が楽しみ成功している様子が見られた。 ・コース作りは最初戸惑っていたものの、全員が自分のコースを作成することができた。 ・友達との関わり方について、失敗を責める声も一部あったものの、単元終盤では肯定的な声掛けがほとんどだった。
児童の感想	<ul style="list-style-type: none"> ・今日は、かけごえをつかったらコースがクリアできました。かけごえを考えたらクリアできるし楽しかったです。 ・アドバイスがたくさんできてうれしかったです。 ・もうちょっとなかをふかめたいです。むずかしかったけどたのしくできました。 ・(ボールを) おとしまくったけれどたのしかったです。

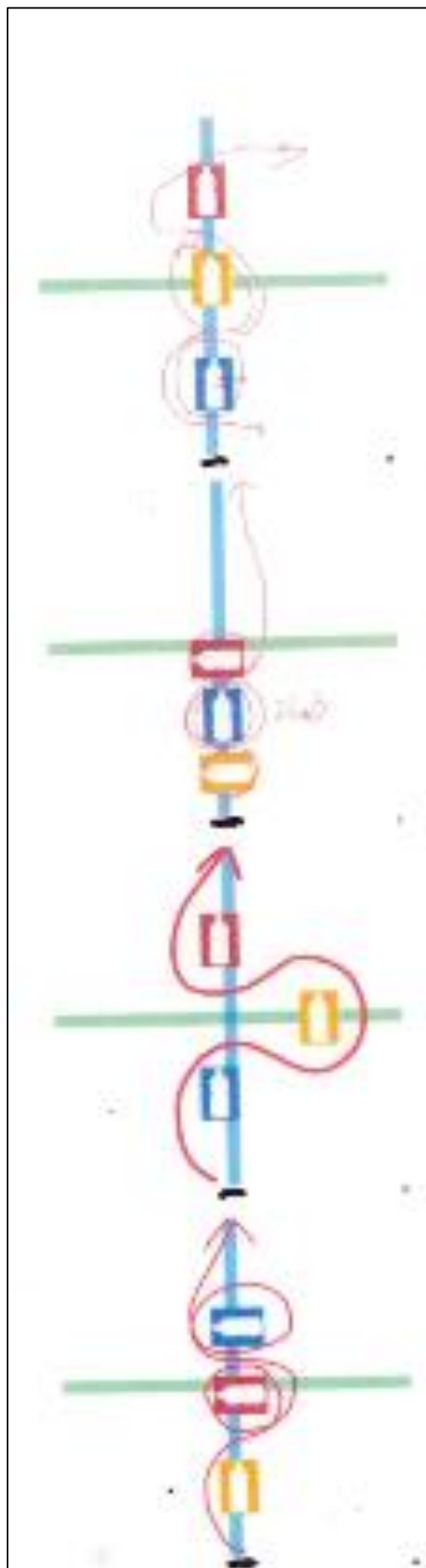
【「わたしたちの体育」を活用した学習について】

<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事の関係から、1度に8時間行うことが難しかったため、4時間ずつの小単元を構成した。教師用指導書 96～101Pの「展開例」を参考に本単元の学習展開を考えるとともに、48Pのきまりを単元初めに指導することによって、安全・安心な学習を展開することができた。
--



○今回使用した学習カード

- ペットボトルには青、黄、赤のビニールテープを巻いておき、青→黄→赤の順番でペットボトルを回することを共通理解しておく、活動がスムーズに行えます。
- 今回の実践ではペットボトルとペットボトルの距離感をつかみやすいように、体育館にも緑と青のラインを養生テープで作っています。
- 小豆支部では、1人1台のタブレット端末を活用し、「ロイノート・スクール」(クラウド型授業支援アプリ)で児童の考えを交流したり共有したりすることで、学習効果を上げる工夫をしています。同様に「SKYMENU」(授業支援・学習活動支援ソフトウェア)でも活用が可能です。



○長いコース 拡大図